

IV 家庭教育支援活動 の実践事例

IV 家庭教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・ 131

◆平成26年度家庭教育支援活動一覧	・・・・・・・・131
◇近江八幡市	・・・・・・・・132
◇草津市	・・・・・・・・134
◇甲賀市	・・・・・・・・136
◇湖南市	・・・・・・・・138
◇高島市	・・・・・・・・140
◇東近江市	・・・・・・・・143
◇日野町	・・・・・・・・145
◇竜王町	・・・・・・・・147
◇多賀町	・・・・・・・・149

平26年度 学校・家庭・地域連携協力推進事業 家庭教育支援活動事業一覧

○事業実施市町及び取組教育支援活動 9市町18活動

	市町名	学習講座・行事等の実施	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動
1	近江八幡市	○	○	○
2	草津市	○		
3	甲賀市	○	○	○
4	湖南市	○	○	○
5	高島市	○	○	○
6	東近江市	○		
7	日野町	○	○	
8	竜王町	○		
9	多賀町	○		

○教育支援活動の内容

【学習講座・行事等】

	市町名	実施 学校区数	幼児期 講座	学童期 講座	思春期 講座	父親向け 講座・企業出 前講座	親子参加 行事	その他	計
1	近江八幡市	9		9					9
2	草津市	2		2			2		4
3	甲賀市	3		3			12		15
4	湖南市	3		2					2
5	高島市	16	15	16	6				37
6	東近江市	22	3	7	3		2		15
7	日野町	5	19	15	1	5			40
8	竜王町	2						11	11
9	多賀町	2	4				12		16

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	対象者	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	5	家庭教育支援コーディネーター	・主に学校における相談活動や研修会の企画 ・関係機関や家庭と連携して、問題の解決を図る
2	甲賀市	4	子育てサポーター	・家庭教育支援チームにおける活動 ・家庭教育に関する学習講座
3	湖南市	2	地域教育活動支援者	・家庭教育支援チームにおける活動
4	高島市	1	退職シニア層	・学校や家庭、地域での子育てボランティア
5	日野町	1	子育て支援員、一般	・子育てサロン等地域での子育て支援活動

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動 日数	主な活動内容		
				学習機会のコーディネート	相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	324 (延べ)	○	○	○
2	甲賀市	19	6	○		
3	湖南市	19	108 (延べ)	○	○	○
4	高島市	21	48	○	○	

「平成26年度事業計画書」より

■ 近江八幡市における家庭教育支援の取組

■ めざす姿

各小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属する。家庭教育支援コーディネーターが軸となって学校と保護者、地域をつなぎ、学校・保護者と地域のつながりの中で家庭教育力の向上を図り、子育ての不安や悩みを解決する仕組みを作るとともに、小学校の保護者対応を支援する。学校・地域の連携による家庭教育支援の仕組みを充実させる。特に、軽い悩みを持つ保護者を受け止めて重い悩みに移行させないことや、重い悩みの保護者を把握したら適切な相談窓口・機関につなぐ場とする。

■ 本年度の活動

- 家庭教育推進協議会：9月3日(水)、11月14日(金)、2月(市全体の家庭教育支援について協議)
- 家庭教育支援コーディネーター・担当者会議：5月28日(水)、9月11日(木)、10月7日(火)
- 家庭教育支援コーディネーターヒアリング：8月21日(木)、25日(月)、9月1日(月)、10月1日(水)
- 家庭教育支援コーディネーター・まちづくり協議会子育て担当者等合同研修：12月2日(火)
- 家庭教育相談員による教育相談：9月24日(水) 安土小学校、11月5日(水) 桐原東小学校
- 家庭教育研修会：1月31日(土) (講師 安倍映子さん(元武佐こども園長))
- 企業・NPOとの連携：

・10月9日(木) 八幡小学校が、株式会社ワコールのツボミスクールを活用し、「成長期の女の子の下着選び」について保護者が話し合うサロンを実施。26年度で3年目となり保護者に好評である。

・12月2日(火) (株)ナリス化粧品とNPO法人ママの働き方応援隊と連携し、育児に忙しく時間のない母親対象の「クイックメイク講座」開催。

※他に八幡小学校がNPO 滋賀次世代文化芸術センターの別室登校・不登校児童生徒支援プログラムを活用。

■ 本年度の成果

家庭教育支援コーディネーターを小学校内に配属しているので、小学校との意思疎通が図りやすく、地域と小学校のパイプ役となっている。コーディネーターは地域の情報を学校に伝え、学校はそれを参考にして保護者対応等を行っている。コーディネーターは、地域の人材なので保護者も話しやすい。コーディネーターは、それぞれの学校や地域の実情に応じた保護者懇談会や講演会、イベントを学校と連携して行っている。加配教員やSSWが配属されている小学校は、コーディネーターと連携して適切なテーマで対象を絞った保護者の語り合いの場の開設などの効果的な取組を行っている。



【クイックメイク講座】

■ 今後の課題

家庭教育支援コーディネーターの出勤時間が年間36時間しかないので十分な活動ができない。家庭教育支援コーディネーターや家庭教育支援事業が、学校・保護者やまちづくり協議会等の地域に十分周知されていない。市立12小学校のうち学校の希望により現在9校が実施しているが、未実施校においても今後この取組を広げていきたい。



【コーディネーター会議】

■ 小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

■ 近江八幡市	
■ 活動名	
学習講座・行事の実施、地域人材の養成、家庭教育支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	研修会 27 回、家庭教育推進協議会 3 回、コーディネーター会議 3 回

コーディネーター数	9 人
家庭教育支援員数	21 人
実施学校区数	9 小学校区

■ 活動の概要

市立 12 小学校のうち家庭教育支援事業実施を希望した 9 小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属。家庭教育支援コーディネーターが軸となって、各学校や地域の実情に応じた保護者の交流の場や講演会、料理作りや映画会などの事業や学校への家庭・地域の情報提供などを行っている。市教育委員会は、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップのために会議や情報提供、研修会等を行う他、まちづくり協議会や小学校等への事業の周知活動を行っている。

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援コーディネーターが軸となって、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、親子の料理教室やイベントなどを行っている。市教育委員会は、コーディネーター等対象の家庭教育研修会等を開催している。

○地域人材の養成

各小学校の家庭教育支援の軸となる家庭教育支援コーディネーターの資質向上のため、コーディネーター会議を開催している。市教育委員会は、コーディネーターに家庭教育に関する行政サービス、他市町の先進事例等の情報提供を行っている。コーディネーターの横の連携や情報交換となる機会を持ち、互いにスキルアップや課題解決ができるよう図っている。

○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校で、家庭教育支援コーディネーターが学校教員や S S W、教育相談員、まちづくり協議会の子育て担当者等と連携しながら、情報収集・共有し、事業に活用している。家庭教育相談員が要請に応じて小学校に出向き、保護者相談に応じている。

■ 特徴的な活動内容

○家庭教育支援コーディネーターによる学校への情報提供

コーディネーターが収集する児童の家庭や地域の情報は、学校では把握できない地域での家庭の評価や各家庭間の関係などを含んでおり、児童の行動の背景にある家庭の実態の理解や指導等に役立っている。

○企業・NPO等との連携

学校支援メニューフェア出展企業・団体等とも連携し、家庭教育支援に資するプログラムを持つ企業・団体を家庭教育支援コーディネーターに情報提供し、各小学校での活用を促している。(株)ワコール、(株)ナリス化粧品、NPO 滋賀次世代文化芸術センター等の活用実績がある。学校支援メニューフェアを介して、PTA が(株)NTT ドコモ、京都水族館等を活用している。

○コーディネーターの各小学校への配属

各小学校にコーディネーターを配属しているので、学校教員と意思疎通が図りやすく、コーディネーターは地域の人材なので保護者や地域の人も話しやすいので、コーディネーターは学校と保護者・地域のパイプ役となっている。

■ 実施に当たっての工夫

○PTA 事業や授業参観、学校行事等の後に事業を行うなどして参加者の確保に努めている。

○コーディネーター間の横の連携や情報交換、市教育委員会からの情報提供・先進事例紹介に力を入れて、コーディネーターの資質向上を促している。そのことで、学校や地域から信頼を得て一層保護者や地域から相談や情報が寄せられ、事業の質や認知度の向上につながることを意図している。

■ 事業の成果

○教育相談が必要が微妙な保護者が、少人数の話し合いの場に来ることで心を軽くしているようである。

○少人数で対象とテーマを絞ることで、保護者の参加意欲が高まり、悩みの軽減につながっている例もみられる。

○コーディネーターが収集する家庭・地域の情報は、学校の児童・家庭への指導・支援等に活かされている。

■ 事業実施上の課題

○子育てサロン等の保護者の交流の場は、参加者が少なく、参加が必要な保護者が参加しない。適切なテーマ決定が難しい。

○家庭教育支援コーディネーターの勤務時間数が年間 36 時間なので、十分な活動ができない。

○全小学校で事業を実施できていない。コーディネーターとして適切な人材がいない等の課題による。



■ 草津市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

本市においては、近年、子育て世帯の転入や核家族が増加しており、また家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も少なくない。

家庭の教育力の向上を推進していく上で、子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基礎となる能力を身に付けることをめざし、家庭における学習の場、情報の提供・啓発活動等の充実を図る。

■本年度の活動

家庭教育力の向上のため、市立幼稚園、小学校、中学校の各单位PTAと連携し、子育ての手法や保護者同士の繋がり合いの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して補助金を交付することで、各单位PTAのニーズにあった家庭教育支援を実施した。

家庭でのコミュニケーションを深めることを目的とし、読み聞かせと音楽演奏で家族と子どもの心をつなぐ場とする「子どもが輝くブックトークコンサート」や、今年度から家庭読書（家読＝うちどく）を中心とした「家庭教育サポート事業」を開始し、参観日やPTA研修会等にあわせ、保護者への学習機会を提供するなどの家庭教育支援をおこなった。

市広報においては、今年度、生涯学習課と図書館と連携し「家庭読書」をテーマに家庭教育に関する事業を掲載し、市民に啓発をおこなった。



《各单位PTAの家庭教育学習事業》



《子どもが輝くブックトークコンサート》

■本年度の成果

家庭教育サポート事業や市広報での啓発においては「家庭読書」という軸を据えたことにより、本市における家庭教育支援の1つの実施体系ができた。

また、各单位PTAへの補助制度による支援・連携により、各幼小中学校のニーズにあった家庭教育プログラムが効果的に図ることができた。

■今後の課題

子育て世帯の転入や核家族が増加しており、家庭での子どものよりよい生活習慣や、コミュニケーションを図るために、さらなる取組みを進めるために、効果的な講座や活動支援を提供する必要がある。

■ 「家庭読書（家読＝うちどく）」で家庭でのコミュニケーション

■ 草津市	
■ 活動名	
学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	2講座

コーディネーター数	1人
家庭教育支援員数	0人
実施学校区数	2校区

家庭教育サポート事業 【学習講座・行事の実施】

■ 活動の概要

市内小学生保護者を対象に、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、「読書大好き草津の子ども」推進事業の一環として、家庭読書（家読）の推進による家庭でのコミュニケーション能力の向上や、保護者向けの学習プログラムを提供することにより、家庭の教育力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

子どもと保護者が、家庭の中でちょっとした時間を利用して本の世界を共有したり、会話をすることで、家庭の絆の深まりや基本的な生活習慣を身につけるきっかけにもつながる。

そこで本事業は、小学校低学年の保護者を対象とした図書館司書等の講座により、子どもが本を好きになるきっかけをつくり、家庭での読み聞かせや読書、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さについて保護者への理解を深め、家庭教育の充実を図る。

■ 実施に当たっての工夫

- ・授業参観時に引き続いておこなうなど、参加しやすい方法を心がけた。
- ・他部署とも連携を図りながら、普段、講演会に参加されない保護者の方にも興味深く受講してもらえるよう内容を考慮した。

■ 事業の成果

- ・図書館司書による本の楽しみ方、子どもたちへの読み聞かせのコツなど、読書を通じた家庭のあたたかい会話のきっかけづくりとして確認するきっかけとなった。
- ・家庭の中で、ちょっとした時間を利用して本の世界を共有したり、会話をすることで家庭の絆の深まりや基本的な生活習慣を身に付けるきっかけとなった。

■ 事業実施上の課題

- ・受講者は比較的、家庭での教育への関心が高い方が多く、今後、家庭教育力の全体的な底上げをおこなうため、より効果的な事業展開を実施していく工夫が必要である。
- ・PTA関係者などと連携し、継続的に事業を実施する仕組みづくりを行う必要がある。



《家庭教育サポート事業実施の様子》

■ 甲賀市における家庭教育支援の取組

■ めざす姿

親子のふれあいを深め、基本的な生活習慣を家庭で身につけるための継続的な啓発と、保護者自身が気づき、考え、行動するための機会を提供する。また、地域ボランティアとして家庭教育サポーターやブックスタートサポーターを養成し、事業協力をいただくことで、地域全体で子育てを見守り、より身近な支援の輪を広げていく。

■ 本年度の活動

○学習講座・行事の実施

- ・はじめまして親子講座～赤ちゃんストレッチ～（年5回）
- ・ベビーマッサージ講座（年9回）
- ・ママも0歳パパも0歳おはなし&ミニコンサート（年3回）
- ・親子ふれあい食育講座（年3回）
- ・親子ふれあい運動広場（年9回）
- ・親子ふれあい絵本広場（年3回）
- ・いきいき孫育て講座（3回連続講座）
- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園・小学校）（年12回）



○地域人材の養成

- ・甲賀市子育てサポーター養成講座（3回連続講座）
- ・家庭教育サポーター・ブックスタートサポーター合同研修（年1回）

○支援チームの設置・活動

- ・はじめまして親子講座～赤ちゃん遊び～（年5回）
- ・親子ふれあい音楽広場（年2回）
- ・家庭教育サポーター会議（年4回）



■ 本年度の成果

○学習講座・行事の実施

事業ごとに実施しているアンケート結果では、参加者の満足度は高い。参加者が継続して参加したり、テーマごとに参加できるよう工夫しているため、参加率も全体的に高い。

○地域人材の養成

家庭教育支援ボランティアは、ブックスタートサポーターに15名、家庭教育サポーターに4名の新規登録を得た。（ブックスタートサポーター52名、家庭教育サポーター23名 H26/12現在）

○支援チームの設置・活動

事業前後の会議をととして、参加者ニーズの討議などが行われ、事業内容の充実につながっている。

■ 今後の課題

多様な保護者のニーズに応えながら、家庭教育の大切さを啓発していくために、事業の見直しや手法の検証を常に行う必要があり、スタッフの意識の向上や情報共有を図っていきたい。

■ その他

- ・こども未来課 家庭教育支援事業の案内 <http://www.city.koka.lg.jp/4273.htm>
- ・甲賀市広報 あいこうか <http://www.city.koka.lg.jp/7891.htm>（家庭教育啓発記事を隔月掲載）

■甲賀市家庭教育支援事業～ゆっくりゆったり子育て親育ち～

■ 甲賀市	
■ 活動名	
①学習講座・行事の実施 ②支援チームの設置・活動	
講座数（年間活動日数）	①ママも0歳パパも0歳 おはなし&ミニコンサート
①3回	
②4回	②家庭教育サポーター会議

コーディネーター数	2 人
家庭教育支援員数	23 人
実施学校区数	3校区

■ 活動の概要

①『ママも0歳パパも0歳おはなし&ミニコンサート』

子育てをはじめる保護者やその家族に、家庭教育の大切さを啓発する講座として平成25年度から開催し、子育て不安の軽減をはかっている。絵本や音楽と出会い、穏やかで楽しい時間を過ごしてもらうことで子育てを楽しみにできるようにすることが事業の目的である。

『～わらべうたと小さな音たち～』 講師 山本 文蓉 さん 開催地：甲南図書交流館

第1回 7月 5日（土） 17組 42人参加

第2回 11月15日（土） 18組 46人参加

□家庭教育サポーター会議

家庭教育サポーター会議では、実施予定の家庭教育支援事業の講座内容について検討したり担当者の調整を行っている。また、実施した事業の反省点や課題について話し合う場として実施している。計画段階から事業実施後の次回の事業に向けた話し合いにまで継続して家庭教育サポーターに関わっていただくことで、地域全体で子育てを見守り身近に応援する意識を高めていくことを目指している。

第1回 5月12日 9名参加 / 第2回 9月8日 12名参加 / 第3回 12月12日 4名参加



■ 特徴的な活動内容

①『ママも0歳パパも0歳おはなし&ミニコンサート』

- ・参加型のコンサートとして、家庭でのふれあいにつながるような実践的な内容を盛り込んでいる。

②家庭教育サポーター会議

- ・家庭教育サポーターが講師や出演者として参加する事業とそれ以外の家庭教育支援事業についても、会議で内容を検討し、より保護者のニーズに応えられるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

①『ママも0歳パパも0歳おはなし&ミニコンサート』

- ・土曜日に開催し、タイトルに「ママ、パパ」を入れて、父親が参加しやすいようにしている。
- ・図書館を開催場所とすることにより、絵本と触れる機会を増やす。

②家庭教育サポーター会議

- ・事業を報告に終わるだけでなく、サポーター個人の事業の感想なども含めて話し合うことで、堅苦しくなりすぎないようにしている。

■ 事業の成果

①『ママも0歳パパも0歳おはなし&ミニコンサート』

- ・毎回定員を超える申込があり、父親同伴の参加率が高い（定員の半数以上）。
- ・赤ちゃんとのふれあい方がわからない保護者に歌などを紹介することで、身近なふれあいのきっかけになっている。アンケートでも家庭での実践につなげようとする感想が見られる。（アンケートに記入された参加者の感想）
- ・親子でふれあえたのがすごくリラックスできた。わらべ歌を歌いながら一緒に手遊びしたりしたのが楽しかった。
- ・普段、家で親子だけの生活が多いので、他の家庭や先生の話などためになった。またこのような講座があれば参加したい。
- ・パパも参加できてよかった。家族で参加できてよかった。

②家庭教育サポーター会議

- ・幅広い年代のサポーターの参加により、会議でそれぞれの年代ならではの意見が得られ、意見を参考に事業の予定が組まれることで、参加者の増加につながったり、保護者のニーズに応えることができた。



■ 事業実施上の課題

①『ママも0歳パパも0歳おはなし&ミニコンサート』

- ・親の様子や表情などを見ながら、気持ちを察知し、臨機応変に対応していく必要がある。

②家庭教育サポーター会議

- ・参加事業に力を入れる一方で、出演者や講師としての役割に集中してしまい、身近な存在として後方支援する場が少なくなっている。家庭教育支援やボランティア活動の意義について意識を高めるため、フォローアップの研修を行う。

■ 湖南省における家庭教育支援の取組

■ めざす姿

子どもたちにとって「家庭」は、安らぎのある楽しい場所であり、創造性や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけて社会へ巣立っていくための大切な場所である。しかし、現代社会における「家庭」は、忙しく孤立した状況の中で、親が個別責任において子育てを行うものとなっている。そのことから、子育てに悩み、子育ての悩みを自由に語り合える場や人間関係を求めている人々は、数多く存在する。

家庭教育支援事業は、家庭で子どもを育てることの大変さを担っている保護者に対して、それぞれの家庭がおかれている状況を踏まえ、共感しつつ学習や相談・支援を行うものである。

■ 本年度の活動

○支援チームの設置・活動

①三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」の中に位置付けている。

コーディネーター 1名

主任児童委員、地域総合センターのスタッフ

・不登校傾向や教室に入れない児童の個別対応と保護者支援

②菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」

コーディネーター 2名

子育てサポーター 4名

・不登校傾向や教室に入れない児童の個別対応と保護者支援

・保護者対象に毎週水曜日13:30～15:00「ほっとサロン」を開設

○地域人材の育成

勉強会の開催 6月27日(金)

講演「子育ての手抜き」～コツとヒント～

講師 桂田 そうし氏

○学習講座・行事等の実施

講演会の開催 第1回12月3日(水)

講演「これからの時代を生きていくために何が(必要)重要か」

講師 鈴木 秀一氏

第2回 2月(三雲小学校においてPTA研修会と兼ねて実施)

■ 本年度の成果

- ・支援員は孤立している保護者と悩みを共有し、一方で学校側とも情報を共有し子どもへの支援の糸口としている。
- ・個々の子どもに寄り添い見守る活動を続けることで、落ち着いた学校生活を保障できている。
- ・学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携の役目を続けている。

■ 今後の課題

- ・学校支援地域本部事業に家庭教育支援的な活動が位置付いている本部も多い。しかし、子どもへの対応について学校と支援員の共通理解が十分図れていない場合は、支援員の不安は否めない。
- ・専門的な知識や豊富な実践経験をもつ講師を招聘する等魅力ある講座を企画し、子ども支援について研修できる機会を多くの人に提供していきたい。

子どもに寄り添い、家庭・地域と連携を

■ 湖南省	
■ 活動名	
家庭教育支援事業の3活動	
講座数（年間活動日数）	3講座

* 支援チームの設置・活動 *

<三雲小学校>

■ 活動の概要

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけられた家庭教育支援も2年目となり、昨年度に引き続き就学時検診のサポート、校内外での子どもたちとの関わりを重点を置き活動した。

■ 特徴的な活動内容

なかなか登校できない児童を中心に、課題の大きい児童に対して家庭訪問も含めた個別の支援に力を入れている。



■ 実施に当たっての工夫

本年度より新たに主任児童委員や地域総合センターとの連携を図ることで、地域での子どもたちを見守る家庭支援の体制を強化した。

■ 事業の成果

地域での支援体制が拡大し、情報交換の場ができたことで、より効果的な活動ができるようになった。

また、支援員が校内や地域行事に積極的に参加することにより、多くの保護者と出会い会話することが増えた。

■ 事業実施上の課題

課題がある子を中心にコツコツと地道な活動を積み重ねている。校内では今後も子どもたちとの関係を築きながら、校外においても有効な活動を広げ、保護者との繋がりをさらに深めていく必要がある。

<菩提寺小学校>

■ 活動の概要

昨年に引き続き、子育てや親子間の悩み心配事を一緒に考える居場所作りと授業に入れない児童に寄り添い見守る活動を行った。

■ 特徴的な活動内容

今年度も、参加の有無にかかわらず毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を実施した。その際に、支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」でかかわりのあったボランティアさんにサロン運営を手伝ってもらった。

寄り添う児童の様子を担当に伝え、家庭へと情報がいくようにしている。

■ 事業の成果

保護者は、思っていることを話し聞いてもらうことで、気分もリフレッシュでき、仲間作りのきっかけにもなっている。また、自分の子どもの様子を知ること、まわりとの関係を周知できるようになった。

コーディネーター数	3人
家庭教育支援員数	3人
実施学校区数	3校区

* 地域人材の養成 *

■ 活動の概要

保護者の中で新たな人材発掘ができたという思いでテーマや講師を選定し、勉強会を実施した。

■ 特徴的な活動内容

- ・開催日 平成26年6月27日 10:40～
- ・場所 菩提寺小学校会議室
- ・参加者 32名
- ・講師 桂田そうし氏(特別支援教育巡回相談員)
「子育ての手抜き」～コツとヒント～

■ 事業の成果と課題

気軽に参加してもらうために、子どもたちの学校生活を撮った写真を掲示した。それを見ながら講演を聴いてもらい好評だった。参加者が自らの子育てについて研修する機会にはなったが、家庭教育を支援する人材の育成につなげるには、継続した勉強会の開催や情報交換の機会が必要である。

* 学習講座・行事等の実施 *

■ 活動の概要

校区を超えて、中学校区全体に発信する講演会を実施した。

■ 特徴的な活動内容

- ・開催日 平成26年12月3日 9:30～
- ・場所 菩提寺まちづくりセンター 小会議室
- ・参加者 21名
- ・講師 鈴木秀一氏(県スクールソーシャルワーカー)
「これからの時代を生きていくために何が(必要)重要か」
※2月 三雲小学校において、学習講座を開催予定

■ 事業の成果と課題

コーディネーター研修でお会いした鈴木秀一先生の話、保護者の皆さんにも是非聴いてもらいたいと企画した。市内全域への周知は難しかったので、中学校区を対象に案内チラシを配布し、各学校には案内した。

参加者数は少なかったが、来られた方は皆満足され好評だった。就学前の子どもを持つ保護者も参加できるよう、計画的な期日の設定と広報の工夫が課題である。また家庭教育支援コーディネーターとして家庭教育支援に関する情報収集に努め、講座の企画・運営に生かせるようにしたい。



高島市における家庭教育支援の取組

■ めざす姿

近年、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹の数が減少し、子育てのスキルトレーニングがなされないまま親になることも多い。

また、都市化の進行による、地域における人間関係の希薄化も指摘され、近所に気軽に子育ての悩みを相談できる相手がなくなったために、地域で孤立する親が増えてきた。

このような状況を踏まえ、親子の絆づくり、祖父母や高齢者の子育てや地域の子育て支援を促進し、教育の原点である家庭が、子どもの「生きる力」を育む場として機能することをめざす。

■ 本年度の活動

○高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

- ・子どもの育ちを地域で見守っていくため、昨年度に組織化した家庭教育支援チームの支援活動を推進。今年度より月2回、子育てひろばを開催し、子育てや家庭教育に関する相談対応や学習機会の提供など、定期的な活動を実施。



○地域教育力向上講座「にこにこすくすく孫育て講座」

- ・退職シニア世代がゆとりの時間を生かし、孫育てや地域参画に対する関心を高め、地域で子育て支援や青少年育成に取り組む人材を育成するため、祖父母の役割や地域参画を学ぶ講義やおやつづくり（食育）などの全4回の講座を開催。

○共育研修会

- ・地域ぐるみで子どもたちを健やかに育てる環境づくりを整え、様々な団体が連携・団結し、地域で子どもを育てる機運を高め、充実・促進させるため、社会教育団体関係者や学校関係者、PTA等を対象に研修会を開催。

○子どもにどうかかわりあうか講座

- ・市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として、保護者を対象にその時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供し、家庭での教育力の向上をはかる。



■本年度の成果

- ・家庭教育支援チームの定期的な活動が始まったことにより、地域における家庭教育支援の体制が整った。
- ・講座や研修会では、親、祖父母、地域住民等、それぞれの立場で子どもとのかかわりを振り返る機会となった。

■今後の課題

- ・子どもたちについては、年々成長していくため、成長に合わせた幅広い年齢に対応できる内容や成長段階に絞った内容など、効果的な内容についての支援活動や講座等の提供をしていく必要がある。

『生きる力』～高島市に元気な子どもを育てるために～（その１）

■ 高島市	
■ 活動名	支援チームの設置・活動 地域人材の育成 学習講座・行事等の実施
年間活動日数	24日（会議・研修会を除く）
講座数	31講座

コーディネーター数	1人
家庭教育支援員数	20人
実施学校区数	16校区

高島市家庭教育支援チーム「パラソル」 【支援チームの設置・活動】

- 活動の概要
 - ・子育てや家庭教育に関する相談対応や親子で参加する様々な取組や講座などの学習機会の提供などを行う。
 - ・地域とのつながりづくりや専門機関との橋渡しを行う。
- 特徴的な活動内容
 - ・毎月第2水曜日と第4土曜日に、「ひろばパラソル」と称し、子育てひろばを開催。相談対応については、話を聴くことが基本となり、質問にはあくまでもチーム員自身の子育て経験等から答えることとし、必要があれば、専門機関に繋ぐこととしている。
- 実施に当たっての工夫
 - ・今年度から本格的な活動が始まったため、チラシの配布等による広報や保護者が興味・関心を持つ内容を盛り込み、まずは知ってもらい来てもらえるよう、活動の周知に努めた。
 - ・保護者がひろばまでわざわざ行くのではなく、普段の生活の中でよく立ち寄る場所で開催できるよう、スーパーの空きスペースを借り、活動を始めた。年度途中で公民館施設に場所を移すこととなったが、周辺にはスーパーや銀行、郵便局、市役所などがあり、変わらない方針で活動できている。
 - ・子どもの対象年齢は定めないものとし、毎月平日に1日、土曜日に1日活動を行い、幅広く支援ができるように努めている。
- 事業の成果
 - ・ひろば利用者のリピーターも増え、保護者や子どもにとって安心できる居場所として定着しつつある。
 - ・チーム員会議や研修会を開催し、情報交換や学習することにより、日々、チーム員の活動意欲も高まっている。
- 事業実施上の課題
 - ・子どもの対象年齢は定めていないものの、ひろば利用者のほとんどが乳幼児等の低い年齢層の親子となっているのが現状であるため、今後、小学生・中学生などの高い年齢層の親子にも気軽に来てもらえる内容・環境の整備をする必要がある。
 - ・活動をさらに充実させるためには、支援員の確保（増員）が必要である。



地域教育力向上講座「にこにこすくすく子育て講座」 【地域人材の育成】

- 活動の概要
 - ・退職シニア世代を対象に子育てや地域の子育てについて学ぶ講座を開催。
- 特徴的な活動内容
 - 【第1回】子育て事情と祖父母の役割「祖父母のために子育て今昔物語」
 - 【第2回】遊びから学ぶ子どもの育ち
「笑って学ぶ子育てのコツ～絵本とおもちゃを通して～」
 - 【第3回】病氣・けが「とっさの時に！役立つアレコレ」
 - 【第4回】おやつづくり「孫とつくりよう！おうちで簡単おやつ作り」
- 実施に当たっての工夫
 - ・現在の子育て事情や遊び、病氣・けが、食育をテーマに、孫と過ごすために知っておきたい内容を楽しく学べるように企画した。
- 事業の成果
 - ・受講者からは「古い子育て方法では孫育てはできない。最新の方法を教えてもらえてよかった。」「昔からの文化の大切さや遊びの大切さを改めて考えさせられた。」などの感想が寄せられ、今後の子育てや地域の子育てに役立ててもらえるものとなった。
- 事業実施上の課題
 - ・受講者には、高島市家庭教育支援チーム「パラソル」への活動参加の呼びかけ等も行っているが、受講後、家庭や地域に持ち帰って活かしてもらえているか不透明な部分がある。



『生きる力』～高島市に元気な子どもを育てるために～（その2）

共育研修会 【学習講座・行事等の実施】

■ 活動の概要

- 子ども社会の現実を知り、家庭・学校・地域が連携し、子どもの育ちを見守っていけるよう、研修会を開催。

■ 特徴的な活動内容

- ①テーマ：～高島のこどもはうちらみんなで育てていこうや～
- ②日時：平成26年12月6日（土）午後2時～午後4時30分
- ③内容
 - ・事例発表：高島市家庭教育支援チーム「パラソル」
NPO 子育て子育てサポートクラブ「きらきらクラブ」
 - ・講演：「地域で子どもを育てるには」
講師 神奈川大学講師・評論家 久田 邦明さん
 - ・グループワーク
- ④参加者：社会教育団体関係者、学校関係者、PTA、
高島市青少年育成市民会議委員 など



■ 実施に当たっての工夫

- グループワークを取り入れ、共通の課題を考える各団体等との情報交換をし、参加者自らの活動に繋げていけるよう工夫した。

■ 事業の成果

- 子どもとのかかわりを通して感じることや大人がすべきことについて学び、「家庭、学校、地域、全体で子どもを見守り育てていく」必要性を考える機会となった。

■ 事業実施上の課題

- PTA関係者等は毎年、人が変わることもあるため、開催時期を年度初めにし、その年度の取り組みを進める仕組みづくりについて考えるなどの工夫をする必要がある。

子どもにどうかかわり合うか講座 【学習講座・行事等の実施】

■ 活動の概要

- 市内小中学校および幼稚園・保育園の保護者を対象に子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供。

■ 特徴的な活動内容

- ①実施期間：平成26年4月～平成27年3月
- ②対象：市内小中学校および幼稚園・保育園（私立を含む。）の保護者
- ③内容：（一部を掲載）

日	場所（対象）	内 容
6/11	マキノ東保育園	幼児期の発達にとり大切な身体の使い方 （講師：阪田隼也さん）
6/20	藤波こども園	子どもの育ちに寄り添って子育てを （講師：嶋崎ひな子さん）
6/30	本庄小学校	親子で命の大切さを考える性教育 （講師：斎藤智孝さん）
9/5	なのはな園	「スマホは必需品？ケイタイ・スマホとの付き合い方を考える5つのポイント」 （講師：川合ちえみさん）
11/22	マキノ北小学校	いじめ・学校不応・子育てについて （講師：鈴木秀一さん）



■ 実施に当たっての工夫

- PTA事業との共催や、授業参観に引き続いて行うなど、参加しやすい開催方法を心がけた。

■ 事業の成果

- 普段は講演会等に参加されない方にも聞いてもらうことができた。
- 子どもに関わっていくことの大切さを再確認する機会となった。

■ 事業実施上の課題

- 子どもは日々成長するため、成長に合わせた内容についての親学習の機会を継続して設けていく必要がある。

■ 東近江市における家庭教育支援の取組

■めざす姿

○子育て中のすべての親への学習機会の提供をめざして

東近江市では、家庭で親子が共に学ぶことができるよう、親自身が家庭教育の意義や役割を学習するための親の学び・家庭教育支援事業を実施し、家庭の教育力向上をめざし取り組んでいる。

特に、PTAやコミュニティセンターの子育て支援講座などでは親の学びを支援する研修会が数多く開催されていることから、それらの研修会に無関心の人を、学びの場に取り込めるような工夫がなされた活動に対して支援している。

■本年度の活動

以下の内容での研修会を各幼稚園・学校・コミュニティセンターとの連携協力のもとで実施

○短時間（30分程度）の学習会・研修会

幼稚園のお迎え前や入学説明会等忙しい保護者でも参加しやすいよう比較的短時間のもの

○親子参加型の学習会・研修会

小さい子どもを家に残して研修会に参加できない親子と一緒に参加できるもの

○サロン型の学習会・研修会

子育ての悩みを話せる相手がなく、子育てにしんどい思いをしている保護者が気軽に立ち寄れて、相談、仲間作りのできる場を設定するもの

○広く公募する研修会

PTAなどが主体となり講師や指導者を招いて実施する講演会形式のもの

【平成26年度 家庭教育支援活動実施幼稚園、小中学校、コミュニティセンター一覧】

7月 愛東北幼稚園 / 市辺コミュニティセンター

9月 玉緒小学校 / 湖東中学校

10月 永源寺中学校

11月 蒲生北小学校 / 布引小学校 / 湖東第一小学校 / 愛東コミュニティセンター

12月 中野コミュニティセンター

1月 市辺コミュニティセンター（市辺幼稚園） / 箕作小学校

■本年度の成果

- ・就学前児童から中学生の保護者まで幅広く支援を実施できた。
- ・これまで当事業の協力は幼稚園や学校が中心であったがコミュニティセンターからの実施も増えた。学校・家庭・地域をつなぐ目的からも意義がある。

■今後の課題

- ・学習会・研修会により多く保護者の参加という点では成果があった。しかし、家庭教育に無関心であったり、子育てに困窮していたりする保護者にまで当事業の趣旨を伝えるための手立てや工夫に課題がある。

■ 親育ち活動の応援

■ 東近江市	
■ 活動名	
親と子どもの共育ち	
講座数（年間活動日数）	12講座

コーディネーター数	1人
家庭教育支援員数	0人
実施学校区数	22小学校区

■ 活動の概要

- 学校、園、家庭、地域が連携協力し、保護者への学習の機会の提供や子育ての相談等を通して「親育ち」を応援し、子どもが豊かな人間性を育みつつ、安心して暮らせる環境づくりを目標に活動。

■ 特徴的な活動内容

- 保護者を対象とした「短時間の学習会」「親子参加型学習会」「サロン型学習会」「広く公募する研修会」いずれかの形態での学習会・研修会の実施を呼びかけ、実施意向のあった幼稚園、小中学校、コミュニティセンターへの支援を行った。

■ 実施に当たっての工夫

- 本事業を広く周知するために、東近江市PTA連絡協議会総会やコミュニティセンター館長会議、職員会議にて紹介。
- 小さな子どものいる保護者も参加しやすいように託児保育も支援の対象を広げた。

■ 事業の成果

- 市のPTA総会で周知をした結果、例年に比べて中学校からの申請が増えた。
- コミュニティセンターでは、小さな子どものいる保護者をターゲットに子育て支援を目的とした事業ができた。
- より多くの保護者が参加しやすい形態の計画により親子参加型の学習会・研修会が増えた。

■ 事業実施上の課題

- より多くの保護者を取り組む様々な工夫を各園、学校、コミュニティセンターにおいて実施され効果を上げた。しかし、幼稚園や小中学校、地域の活動に何らかの理由で参加しなかったり、距離を置いたりする家庭に対する具体的な支援の手立てが必要。

■ その他

- 当事業の推進により、学校教育と社会教育が両輪となり、子どもの生きる力を育み、生涯教育へと発展していくように今後も学校、家庭、地域の連携協働をコーディネートしていけるよう努めたい。



■ 日野町における家庭教育支援の取組

学校・家庭・地域が連携した青少年健全育成について
「地域の子どもを地域で育てよう！」

■めざす姿

「地域みんなで、日野の子どもを育てていこう！」という誰にでもわかりやすいメッセージを地域の中に発信し、ふるさとの未来を担う明るく元気な子どもたちを自主的・主体的に育てて「自分たちの子」を育てていかなければなりません。そこで、「地域子育て」の概念を定着させ、学校と家庭と地域そして行政が四輪駆動となり、ともに関わり動き、地域自らが「日野のたから」である子どもを育てていく具体的な行動をとらなければなりません。

大人から子どもへ、人と人との関わりを大切にして温かい交流を行い、子どもをやさしく見守り信頼の絆をつくり、地域の教育力を高めるために様々な関係する団体と協力をしながら「地域子育て」事業をすすめています。

■本年度の活動

子どもたちのことを地域の大人が正しく理解し、地域から子育ての輪を広げていくために青少年に関わる諸団体が協力し「日野町地域子育てフォーラム 2014」を開催した。

■本年度の成果

地域の大人が家庭教育の大切さを認識し、子どもたちの学力・学習状況、生活を取り巻く状況について理解が深められた。また、家庭で大切にしたい6つの条文と「わが家の1か条」の家庭教育7か条と「ケータイ・スマホ・ゲーム機利用に際して親子の約束」を提案し家庭で話し合うことの大切さを地域に発信ができた。

■今後の課題

大人が、子どもの目線に立って、表情や言葉に耳を傾け、子どもの心を読み取る努力が必要である。そして、子どもを気づかい、それぞれの家庭で親子の心のふれあいを大切にし、社会のルールやマナーを教え、基本的な生活習慣を身につけさせ、地域全体での子育て環境のあり方を見直すことの重要性について、今後、継続的に議論していく必要がある。

「みんなが助け合う社会」「相手を思いやるやさしい社会」をつくり、お互いが顔を合わせ、共にこれからも挨拶を交し合える人間関係と地域社会を築きあげることが大切である。



■ “日野のたから”を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり

■ 日野町	
■ 活動名	
学習講座・行事等の実施・地域人材の養成	
講座数（年間活動日数）	24 講座、人材養成会議・講座 8 回

コーディネーター数	2 人
家庭教育支援員数	8 人
実施学校区数	5 校区

■ 活動の概要

幼稚園井戸端学習会（6 講座）、就学前学習講座（5 講座）、PTA 等子育て学習会（9 校区）、子育てサロン学習会（5 講座）を実施している。また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議 2 ヶ月に 1 回実施、子育てサポーター会議を年 3 回実施し庁内体制と地域の子育て関係者が連携し、人材発掘の情報交流を持っている。さらに子育て支援の輪を広げるためにサポーター養成講座（5 講座）を平成 27 年 2 月に実施予定している。



■ 特徴的な活動内容

幼稚園や小学校に保護者が集まる機会に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にして欲しいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供し、家庭での教育力の向上を目的に開催している。

また、地域社会全体で子育てを行う機運を高めるため、地域社会で子育てに関わる必要性についての基本的な講義を行うとともに、地域の子育て支援者を育成することを目的に、実際に子育て支援者として活動する際に役立つ実践的具体的な講義を行なっている。

■ 実施に当たっての工夫

「ゆっくりおおくなあれ」という子育て応援通信紙を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して広報紙を発行している。町内の子育てサロン事業や様々なつどいの場の情報をお知らせし、日程をカレンダー化することによって、各種イベントや講座・学習会に参加しやすいように情報提供をしている。併せて子育てサロンと連携し「子育てスタンプラリー」を開催し、関係するイベントや学習会に参加しやすい機運が芽生えてきており、子育て事業に参加者数が伸びてきている。

また、家庭教育に関わるおじいさんおばあさんにも子育て教育に参加いただき、幅広い家庭での子育て支援を促している。

■ 事業の成果

○幼稚園井戸端学習会、就学前学習講座

さまざまな機会を捉えて学習会を開催することで、普段は講演会に参加できない保護者にも学習機会を提供できている。また、広報紙で事業の日程内容をお知らせすることで、参加者が増えてきている。

○PTA 等子育て学習会

実施単位を PTA にすることで、校区によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供できた。

■ 事業実施上の課題

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。講師選定の参考となる資料を提供していくなど、より家庭教育支援に繋がる学習会となるよう図っていきたい。

○子育てサポーターの育成

養成講座に参加いただいた方がそのままサポーターに登録いただけるとは限らず、養成まで至らない場合も多い。子育てに関心がある方を取り込むところに難しさがある。



■ 竜王町における家庭教育支援の取組

■めざす姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりをめざす必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努め、子どもの夢と希望を育む。

■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町家庭教育支援運営協議会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏 名	所属・役職等		氏 名	所属・役職等	
	寺嶋恭子	幼稚園教頭		古株裕基	幼稚園PTA会長	
	富田綾子	西幼稚園教頭		川畑信行	西幼稚園PTA会長	
	関谷典子	小学校教頭		森島芳晶	小学校PTA会長	
	新庄 証	西小学校教頭		芝本正臣	西小学校PTA会長	
	市田太芽男	中学校教頭		嶋田 治	中学校PTA会長	

■本年度の活動

講師等との事前打合せ（意見交換）

参加のためのチラシ作成と啓発活動

3月中旬 次年度事業内容の検討会

■本年度の成果

町全域を対象としたフォーラムを開催することにより、学区を越えて互いの情報交換等を行い、地域や関係団体との連携を深めることができた。

学習講座・行事を実施することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりを支援することができた。

■今後の課題

学習講座等の参加者がまだまだ少ないので、周知方法など参加者を増やすための対策を検討していく必要がある。

子どもたちの夢や希望を育もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	7 講座

コーディネーター数	3 人
家庭教育支援員数	10 人
実施学校区数	2 校区

■ 活動の概要

○子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

○町内の PTA が一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で地域の教育力を醸成させる。

■ 特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

○お弁当作り講習会

9月4日（木）、16日（火）開催。対象は3歳児保護者。3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供すると共に、子どもへの食を通しての子育てに生かす。

【竜王西幼稚園】

○子育て講演会

10月22日（水）開催。対象は保護者。核家族化がすすむ中、日々の子育てにおいて、不安を感じていることを相談できずに悩み孤立していく保護者の姿も見られる。また、子育てに必要なことは何なのかという戸惑いや不安が大きい。このような状況の中、講演会に参加することを通して、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

【竜王小学校】

○子育て講演会

11月18日（火）開催。対象は保護者。子どもから大人までが知らないうちに被害者にも加害者にもなり得るインターネット上での様々な問題は、重大かつ深刻な問題となって大きく取り上げられている。そのような子どもたちを取り巻くインターネット社会の落とし穴や問題点について話を聞き、今後の子育てに生かす。

【竜王西小学校】

○竜西フェスティバル

11月8日（土）開催。対象は小学生、保護者。地域を題材にした大型の紙芝居の朗読を通して、地域の文化や歴史を学び、郷土を愛する心情を育てる。また、ダンスや科学など親子で参加体験し地域の人との交流を深める。

【竜王町教育フォーラム 2014】

11月22日（土）開催。対象は保護者、教職員。平成26年度竜王町 PTA 連絡協議会がかかげる「楽しもう！夢と希望を育む子育てを。語り合おう！親育ちのために。」のスローガンに基づき、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を実施。



■ 参加者の主な感想

- ・日々の生活の中で、おやとしてもこの子育て方法で間違っていないのか、こんな時の対応はどうすればいいのだろうかという悩みながら過ごしていますが、講演を聞き、何歳になってもやり直しがきくとおっしゃっていただいたので安心しました。子どもが大人になった時に「おかあさん100点だよ」といってもらえたらうれしいだろうなと感じました。
- ・私自身気持ちを落ち着かせ心にゆとりを持てば、それが子どもにも自然に伝わり、悩みもなくなっていくのかなと思いました。

■ 事業の成果と今後の課題

- ・講演のなかで「子育ては何歳でもやり直しができる」という言葉を聞き、子育てに対してかまえていた部分が、ほっと力が抜けて、そのことが親自身が心にゆとりをもって、子どもに関わっていこうとする気持ちへとつながって行ったのではないかと思います。今後も保護者自身が、日々を振り返り子育てを楽しみながらしようとする意欲へとつながっていくような場の提供を心掛けていきたい。

■ 多賀町における家庭教育支援の取組

■めざす姿

核家族化が進む現代社会において、地域で子育て世代に適切な子育てに関する情報等や親子のきずなを育む機会を提供し、保護者の教育力向上を応援することで家庭教育の充実をめざす。

■本年度の活動

月1回の頻度で開催される多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を活用し、現場における要望や情報などを持ち寄り、協議、検討、調整を行っている。

■本年度の成果

家庭教育の重要な時期である乳幼児から就学前までの子どもをもつ保護者の子育て支援、きずなを育む取組みができた。

■今後の課題

現場の要望を重視しすぎ協議会の意見等が反映されにくいため、今後は方針等を定め一定の目標を示すなどの工夫が必要である。

■その他

多賀町地域教育力推進協議会

開催数：年10回、委員数：26名



【会議の様子】

団体	多賀町PTA連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		J A 東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		麒麟ビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		大滝小学校
	Dドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「SKO」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

■ 現場にあった子育て支援の提供をめざして

■ 多賀町	
■ 活動名	
子育て講演・親子ふれあい活動の実施	
講座数（年間活動日数）	14 講座

コーディネーター数	1 人
家庭教育支援員数	6 人
実施学校区数	2 校区

■ 活動の概要

- ・ 町内の子育てサークルや保育園、幼稚園を対象に、子育て講演や親子ふれあい活動を実施している。

○子育て講演

開催日	対象者	人数
5月22日（木）	たきのみや保育園児の保護者	13人
6月24日（火）	多賀ささゆり保育園児の保護者	32人
7月 3日（木）	多賀ささゆり保育園児の保護者	100人
7月 7日（月）	大滝幼稚園児の保護者	12人
11月 6日（木）	平成27年度小学校入学予定児童の保護者	63人

○親子ふれあい活動

開催日	対象者	人数
4月17日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	32人
6月16日（月）	多賀幼稚園児およびその保護者	84人
7月19日（土）	多賀ささゆり保育園児およびその保護者	200人
7月17日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	28人
10月 2日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	28人
10月16日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	32人
11月 6日（木）	たきのみや保育園児およびその保護者	41人
11月15日（土）	多賀幼稚園児およびその保護者	107人
11月20日（木）	子育て支援サークル「パオパオ」	30人

■ 特徴的な活動内容

- ・ 就学時健診の機会を捉え、保護者に対する子育て講演を行っているため、参加率もほぼ100パーセントと非常に高く効果的である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 各現場のニーズに合わせた講師選定を優先としているため、保護者のニーズや指導者（先生）の想いが事業に反映させることができ非常に有効的である。

■ 事業の成果

- ・ 親子ふれあい活動では、講師の配置により、貴重な子どもと保護者のふれあいの時間を有意義に過ごすことができ、楽しく効果的な事業の実施が行えている。
- ・ 子育て講演では、日頃の忙しさから子育てにおいての本質を見失っている保護者も多く、講演に対する関心が高い。

■ 事業実施上の課題

- ・ 子育て講演をさらに多くの人に参加してもらえよう工夫していく必要がある。

■ その他

特になし。



入学予定児童の保護者向け子育て講演会



多賀ささゆり保育園の親子ふれあい活動